2024年度　卒業生答辞　上加　あさぎ

草木が芽吹き始め、その美しい緑に春の訪れを感じる季節となりました。
私たち卒業生一同は、今日この日をもちまして、神奈川大学を卒業します。人生の大きな節目となる日に、このような素晴らしい式を挙行してくださり、心より感謝申し上げます。また、本日ご多用の中ご臨席いただきました先生方、ならびにご来賓の皆様に、卒業生一同心より感謝申し上げます。

思い起こせば、2021 年 4 月にこの場所で入学式を迎えてからの４年間は、変化に富み、様々なことを経験した日々でした。
私たちが入学した当時は未だコロナ禍であり、どのような大学生活になるのか心の隅に不安を抱えながらの始まりでした。しかし、大学関係者の皆様の努力によって、講義は遠隔形式だけでなく、一部は対面でも行われました。そのおかげで、私は互いに相談しあえる仲間をつくる機会を得ることができました。

理学部の私にとって、キャンパスの移転というのは大きな変化でした。２年次まで過ごした湘南ひらつかキャンパスは、豊かな自然に囲まれたのどかな場所でした。そんな場所で、伸びやかに過ごした日々は、貴重な時間だったと思っております。そして３年次からは、横浜キャンパスでの生活が始まりました。３年目にして、新入生のような状態で、新しい環境への戸惑いも大きくありましたが、同時に新たなスタートをきった高揚感もありました。

４年間には変化だけでなく乗り越えるべき壁もありました。中でも、２年後期と３年前期に行われた実験の科目は印象に残っています。私は自分に自信が持てず、実験前はいつも緊張していました。緊張から手が震えてしまうこともあり、自分には向いていないのかもと落ち込んだ時もありました。そんな自分を変えなければと思い、どうしたら自分に自信が持てるのか考えた結果、予習をより丁寧に行うことにしました。実験の予習ノートは実験中に見ても分かりやすいよう、テキストを熟読した上で、簡潔に書くことを意識しました。また、実験操作の動画は何度も見直し、頭の中でイメージトレーニングをしてから実験に臨みました。とても初歩的なことかもしれませんが、これらを毎授業続けている内に、落ち着いて実験に取り組めるようになり、自信を持てるようになっていきました。この経験は実験だけではなく、すべてにおいて、地道に基礎を積み上げていくことの大切さを再確認する機会となりました。また、一度実験中に大きな失敗をしてしまった際に真っ先に助けてくださった先生や、励ましてくれた仲間という存在も心の支えになりました。

このような経験と学びを得て、４年次では卒業研究へと臨みました。実験が思った通りにいかず、悩んだ時が何度もありました。その度に話を聞いてくれた研究室の同級生や、何度質問しても快くアドバイスしてくださった先輩方、手厚くサポートしてくださった教授の存在に助けられ、ひとつの集大成として卒業論文を書き上げることができました。

４ 月から私たちは、社会に出る者、大学院に進み学びを継続する者など、それぞれの道を歩み始めます。どの道に進んだとしても、４年間で得た仲間との繋がり、様々な知識と経験は、自分の道を切り開いていくための糧となると信じています。これから先の希望ある将来に向けて、自分を信じて歩み続けていこうと思います。

最後になりますが、私たちが本日無事に卒業という日を迎えられたのも、多くの方々の支援があってこそのものです。ご指導してくださった先生方、多方面から支えてくださった職員の皆様、一番近くで精神的にも経済的にも支えてくれた両親、すべての皆様方に心からお礼申し上げます。

以上、皆様方のご健康とご活躍をお祈りするとともに、神奈川大学の一層の発展を願い、答辞とさせていただきます。

2025 年 3 月 21 日
卒業生代表
理学部　化学科　上加　あさぎ